

令和7年1月20日開催  
令和6年度 第2回習志野市災害医療対策会議  
資料1-1

## 病院前救護所体制案及び令和7年度試行訓練等について

1. 病院前救護所体制への変更理由
2. 体制の基本的な考え方
3. 病院前救護所体制の概要
4. 病院前救護所運営方法
5. 体制変更に伴う医療本部役割
6. 医薬品について
7. 情報伝達共有方法
8. 令和6年度現地調査
9. 令和7年度以降の訓練

1

2

## 1. 病院前救護所体制への変更理由

### (1) 現体制の課題の解消

#### 【現体制の課題】

1. 応急救護所から病院までの中等傷病者～重傷者の搬送に時間を要す
2. 重傷者の初期治療は現応急救護所資器材では限界がある  
(本来医療機関ではない中学校等公的施設開設) ため、  
モニター等で中等傷病者～重傷者の管理ができず、その分人員がとられ、  
応急救護所が本来担うべきトリアージや軽症者治療を行うことが難しい。

→→→上記2点の課題については、病院前救護所によって解消

3

### (2) 発災直後から超急性期における医療資源の適切な活用

発災直後（発災～6時間）～超急性期（6～72時間）は住民の生命・安全の確保を行う時期である。その時期は過去の災害時の状況を踏まえると、被災している医療機関に傷病の程度にかかわらず多くの人が集まり、医療現場は混乱し、医療を必要とする傷病者へ適切な医療が提供されにくい状況が想定される。

その時期に病院前救護所を設置し、多数来院する傷病者をトリアージし整理することで、医療機関の混乱を防ぎ、治療の優先順位を明確にし限られる医療とマンパワーをより必要な対象者へ提供することが可能となる。

医療救護活動のフェーズ		
0	発災直後（発災～6時間）	建物の倒壊や火災等の発生により傷病者が多数発生し、救出救助活動が開始
1	超急性期（6～72時間）	救出された多数の傷病者が医療機関へ搬送されるが、ライフラインや交通機関が途絶し、被災地外からの人的・物的支援の受入れが少ない
<b>市民の生命・安全確保</b>		
2	急性期（72時間～1週間）	被害状況が少しずつ把握できライフライン等が復活し始め、人的・物的支援の受入れ体制が確立

3

## 2. 体制の基本的な考え方

### 【病院前救護所の役割】

トリアージによる適正な医療提供の調整、軽症者の手当

- ①傷病者のトリアージ
- ②病院受診者の整理
- ③軽症者（緑）手当
- ④重傷者等（赤・黄・黒）を院内への搬送（状況に応じ救護所・病院メンバー両者が協力し行う）
- ⑤病院前救護所の医薬品・衛生材料の需給状況の管理
- ⑥診療記録の作成
- ⑦遺体（黒）発生状況に応じて死体検視及び死体検案書の作成
- ⑧その他、状況に応じた必要事項

### 【病院の役割】

- ①院内患者の継続治療の確保
- ②病院前救護所の中傷者・重傷者（トリアージ黄・赤）の受入れ・治療・病状安定処置（搬送待ち処置）等
- ③院外搬送調整
- ④災害医療本部へ連絡調整（病院前救護所受診状況の報告、医薬品衛生材料・人員の調整依頼等）

5

### 【会議審議事項1.】病院前救護所設置基準は「震度6弱観測」でよいか

- ・病院では、谷津保健病院・津田沼中央総合病院は震度5強、済生会習志野病院・習志野第一病院は震度5弱で参集としており、震度6弱病院前救護所設置時点で、各病院の参集体制は整っている状況にある。
- ・設置にあたっては、病院により立ち上げの協力体制は異なるため、各病院と病院前救護所メンバーが協力し合うということできかがか。

## 3. 病院前救護所体制の概要

### (1) 設置について

#### ① 設置基準

現在の応急救護所設置基準と変更せず

- ・地震：習志野市で震度6弱観測…各自で震度を確認後自動参集
- ・震災以外のその他（大規模事故等も含む）：市災害医療本部長が必要と認めた時

#### ② 設置会場

済生会習志野病院、津田沼中央総合病院、習志野第一病院、谷津保健病院の病院前に設置

※予定している医療機関が被災し運営が困難な場合、別途公的施設での救護所開設を医療本部が検討する。

#### ③ 設置期間の目安

病院前救護所の設置は発災後72時間を目安とする。

- ・来院者・病院の復旧状況等総合的に医療本部で検討し、病院前救護所の閉鎖・縮小等を判断し、病院前救護所の継続が必要な場合、医療ボランティア・DMATの支援状況により、引継ぐ。 4

## (2) 運営メンバーと役割

習志野市医師会員、習志野市歯科医師会員、習志野市薬剤師会員、習志野市アマチュア無線非常通信連絡会員、市職員

※各会等で会場振り分けし、各病院前救護所へ参集

※※病院前救護所最低人員（目安）：

・ トリアージ2ペア ・ 緑・軽症者治療2ペア（内科医1・外科医1） ・ 受付事務1 ・ 誘導事務1

【団体】	【病院前救護所における各団体の役割】
習志野市医師会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トリアージブース・リーダー、トリアージによる傷病者の緊急度の見極め、その移動先の指示</li> <li>・ 治療ブース・リーダー、トリアージ緑・軽症者の応急処置、その指示</li> </ul>
習志野市歯科医師会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師と協力しトリアージや軽症者の応急処置の実施</li> </ul>
習志野市薬剤師会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師と協力しトリアージや軽症者の応急処置の補助</li> <li>・ 使用する薬剤の選定、医薬品・衛生材料の管理・不足薬品の要請を実施</li> </ul>

7

【団体】	【病院前救護所における各団体の役割】
習志野市アマチュア無線非常通信連絡会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院と市医療本部の連絡ツールとしてのアマチュア無線に係る運用の補佐</li> </ul>
市職員 (保健師・事務職等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市職員・ボランティア等派遣要員の調整、医薬品・衛生材料等物品の調整、市医療本部との連絡・調整…雑務責任者</li> <li>・ 保健師：医師と協力しトリアージや軽症者の応急処置の補助</li> <li>・ 来院する傷病者のトリアージブースへの誘導</li> <li>・ 指示を受けトリアージ黄・赤の院内への搬送（救護所と病院で協力し実施）</li> </ul>

5

## 4. 病院前救護所運営方法

### (1) トリアージ・傷病程度による取扱い

#### □病院前救護所でのトリアージ方法：START法

※急変する可能性があるため、待合中は傷病者の状況を随時再トリアージが必要。

トリアージタグ による分類 (優先順位)		状態	移動場所
第1順位	赤 (Ⅰ)	重症。直ちに救命措置が必要な傷病者。入院治療。	院内・赤エリア
第2順位	黄 (Ⅱ)	中等症。2～4時間以内に治療を要する傷病者。 (バイタルサインが安定している者) 入院治療。	院内・黄エリア
第3順位	緑 (Ⅲ)	軽症。救急転送不要な軽易な傷病者。 主に創傷、打撲、やけど、骨折等に対する応急処置。 内因性疾患に対する応急医療。	病院前救護所・治療ブース
第4順位	黒 (Ⅳ)	すでに死亡している者または明らかに救命不能な状態の傷病者。	院内・黒エリア、遺体安置エリア

9

### (2) 傷病者の流れ

#### 【基本】

・トリアージ緑は、病院前救護所で処置、帰宅へ。薬等は院外薬局で処方。

・トリアージ黄は、院内へ搬送し治療。

・トリアージ赤は、院内へ搬送し病状安定処置後、3か所の救急告示病院は済生会習志野病院へ搬送若しくは、DMATを各病院へ派遣し対応。  
各院内の処置・治療については、病院の被災状況により診療提供状況は異なってくるため、各病院の被災状況等を踏まえ災害医療本部が調整する。

10

## 5. 体制変更に伴う医療本部役割

※下線部分は変更に伴う追加事項

- ①三師会、医療機関等被災状況の把握と整理
- ②病院前救護所設置検討・指示  
・設置予定病院の被災状況によって、別途設置の検討、設置の場合は指示。  
設置予定病院最寄りの公的施設（避難所となる小学校・中学校等）に病院の備蓄衛生材料等持参し実施。トリアージ黄・赤は病状安定処置が未実施の為、消防へ最寄病院へ搬送依頼。  
搬送調整は市医療本部が実施。  
・来院者・病院の復旧状況を総合的に判断し、病院前救護所の閉鎖・縮小等決定
- ③病院前救護所の設置と運営
- ④病院前救護所・病院の傷病者受入れ状況や稼働状況の情報収集（定時報告・EMISの確認等）、EMIS代行入力
- ⑤医薬品・衛生材料の補充調整・調達・会場への輸送、各要員の派遣  
・病院への傷病者の集中が著しい場合に、庁内応援要請（事務職・保健師・看護師等）
- ⑥重症傷病者等の院外搬送の搬送手段、搬送先の調整  
・病院が傷病者受入困難となった場合の、トリアージ黄・赤の受入病院の調整
- ⑦医薬品・衛生材料の流通状況、補充調整、調達
- ⑧市災害対策本部への報告・調整（医療関係団体に関すること、病院前救護所の開設・運営について）
- ⑨関係機関との情報交換・調整（三師会へ医療機関被災状況の確認と市災害対策本部・医療本部・病院前救護所状況について情報共有）
- ⑩関係機関への要員派遣等協力・応援要請
- ⑪広報・情報活動（対応可能医療機関・薬局等について情報提供等）
- ⑫県医療本部との情報共有及び調整
- ⑬千葉県医療救護班受援、DMAT受援に係る情報収集（人的資源が不足するため、DMATやボランティア連携を図る）
- ⑭市内避難所等への医師、歯科医師、薬剤師、助産師の派遣・往診等の調整
- ⑮遺体の検視検案に係る調整（県・日赤等外部団体等も視野）
- ⑯その他状況に応じた必要事項

11

12

## 6. 医薬品について

病院前救護所と病院で処方された医薬品は、病院の最寄薬局で処方。そのため、各病院最寄り薬局の数か所開設する。

・病院前救護所にはトリアージ緑・軽症者処置用の医薬品・衛生材料（最小限、軽微な外傷等処置セット等）を備蓄。初動ですぐ使用するため、その備蓄は院内もしくは院外でも病院前救護所設置場所に近い場所が望ましい。

医薬品が不足となった場合の補充ルート

- ①市薬剤師会から供給（薬局間での医薬品の貸し借り、販売は可能）
- ②県・保健所への供給要請

※病院前救護所の医薬品備蓄と管理について

- ・病院前救護所となり医薬品の規模が小さくとも医薬品の無駄が抑えられる、別途保管場所のスペースを取らない等病院内での循環型の管理が望ましい。
- ・4病院は概ね循環型での管理は可能であり、望ましいとの意見。
- ・循環型の例として、医薬品の必要品目にあわせ病院が購入し市が購入費を支払う。その後の医薬品の管理を病院へ委託する

【結果】病院内での循環型の方向で検討。市は循環型の方法を研究へ。

13

### 【会議審議事項2.】

病院前救護所と病院で処方された医薬品は、病院の最寄薬局で処方によいか

- ・習志野市薬剤師会より各病院最寄り薬局数か所へ開設協力依頼を行う予定。
- ・病院前救護所の医薬品備蓄と管理については、病院内での循環型の方向で検討のため、市は循環型の方法を整理していく。

## 7. 情報伝達共有方法について

病院と病院前救護所の情報は病院へ情報集約・一本化

→病院の本部・情報部門が病院・病院前救護所の状況を報告・要望等の伝達・情報共有を市医療本部等と行う

情報集約・一本化の理由

- ①病院前救護所となった場合、病院と救護所は一体化しているので、ダイレクトな連絡ができる（トランシーバー・PHS・対面の引継ぎ等）
- ②無線ルートを整理した方が、情報と無線ルートの重複を避けられ、より円滑にやりとりできる。
- ③時間経過により病院前救護所閉鎖となった場合、その後も病院は医療本部とのやりとりは継続することとなるため、元より病院へ集約した方がスムーズなため。

・病院はEMISで院内患者の状況と受診患者の状況は入力可能。災害医療本部は経時的にEMIS入力状況と病院前救護所からトリアージ状況を確認し把握する。

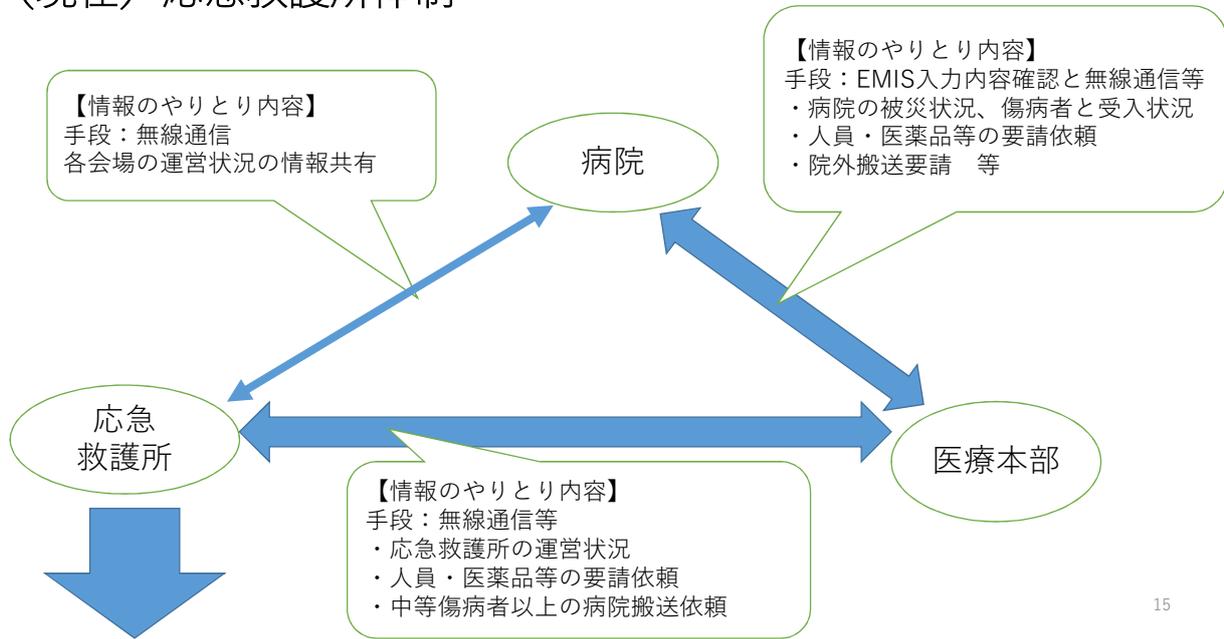
【会議審議事項3.】病院と病院前救護所の情報の病院へ情報集約・一本化に伴う、習志野市アマチュア無線非常通信連絡会（以下「非常通信連絡会」）の協力体制についての意見

10

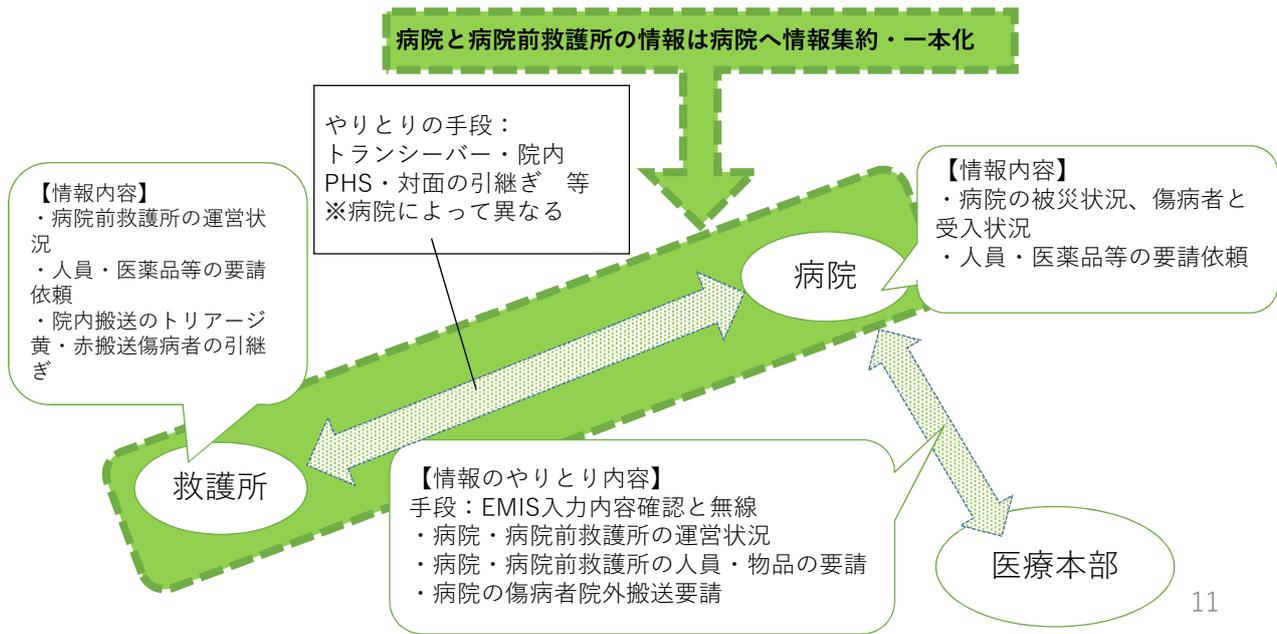
・情報集約に伴い、病院前救護所には無線機器の設置はせず、各病院内の通信手段に合わせて、病院と病院前救護所は連絡を取り合う。

医療本部においては、各病院との無線通信を引き続き実施するため、非常通信連絡会の協力をお願いしたい。各病院前救護所の無線設置はなくなるため、病院内の無線サポートは可能か、病院と病院内救護所の（無線とは異なる）通信のサポートは可能か、ご意見を伺いたい。

### (現在) 応急救護所体制



### (今後) 病院前救護所体制



## 8. 令和6年度現地調査

(1) 現地調査の目的
医療機関は施設ごとに体制や建物の構造等異なる。 病院前救護所体制の骨子を基に、各会場ごとの具体的な運営案（配置図・運営方法の詳細等）を検討・作成するための現場の調査。
(2) 時期
R7年2～3月頃
(3) 方法
・健康支援課職員が各病院に出向き、主に①病院前救護所設置予定場所の確認、②中等症～重傷者の搬送場所・動線の確認 ③病院前救護所備蓄品保管予定場所の確認 を行う。 ※上記の確認のため、病院職員の方の立ち合いも依頼

17

(4) 現地調査での確認事項
①病院前救護所（トリアージ・治療）の設置場所・スペース・配置 ※設置場所の条件を踏まえ、病院側が設置場所と考えられる場所はどこか確認
②病院における傷病者受付～トリアージ～中等傷病者の院内受け入れ及び軽症者治療の流れの確認
③院内のトリアージ黄・赤・黒の搬送場所の確認
④物品置き場（倉庫等） ※病院側が保管場所と考えられる場所はどこか確認
⑤必要備品・市が購入すべき備品の確認
⑥有事の際の院内感染症ブースの有無や取扱いの確認
⑦有事の際の既存の院内情報システムについて、院内情報集約部門の場所と院内の情報やりとり方法の確認
※薬剤師会より提案があった「臨時調剤所」のスペースが病院前であわせて確保できるか確認。 ・「臨時調剤所」：門前薬局が機能しなくなった時に設置。最低限の調剤ができる。設置は要望があった場所。必ずしも使うわけではないが、最低1か所分の準備を考えている。 ・設置に必要なもの：テント、ライト、風よけの机、流し（汚水を捨てるバケツ等）、18リットルの精製水、スケールやライトを使用するための発電機（電気が使えなければ分銅を使った計器を使用）

## 9. R7年度以降の訓練

### (1) 今後の訓練案

	病院前救護所検討スケジュール	訓練案（概要）
R7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試行訓練を通して必要物品の確認、予算化物品の洗い出し</li> <li>・ 具体的な運営方法の整理とマニュアル改訂作業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各病院にて、4か所での試行訓練実施（健康支援課・事務局が参加：病院前救護所の配置と流れの確認）</li> <li>・ 総合防災訓練にて、現体制の医療本部・応急救護所訓練実施（医療本部・応急救護所のみ・縮小）</li> </ul>
R8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院前救護所必要物品の予算化</li> <li>・ マニュアル改訂・協定書改訂等作業</li> <li>・ 各関係団体への病院前救護所体制についての説明会実施</li> <li>・ 市民周知方法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院前救護所体制についての説明会</li> <li>・ トリアージ研修</li> <li>・ 4か所の病院で試行訓練実施（各応急救護所参集メンバー参加：各会場の運営案を基に病院とともに訓練実施）</li> </ul>
R9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院前救護所必要物品の購入</li> <li>・ 必要備品の設置完了し病院前救護所運営へ変更</li> <li>・ 広報・ホームページによる市民周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4か所の病院で試行訓練実施（実際の参集メンバー参加：各会場の運営マニュアルを基に病院とともに訓練実施）</li> </ul>

### (2) R7年度 訓練について

<p><b>① 試行訓練</b></p> <p>【参加者】健康支援課（事務局職員）</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各病院の現状に合わせ、4か所の病院で実施。</li> <li>・ 現地調査を基に作成したレイアウト・運営方法を、実際の病院訓練にて検証する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レイアウトを基に一部備品を設置し確認。</li> <li>・ 傷病者整理→傷病者受付→トリアージ→院内搬送・軽症者治療の流れを確認。</li> </ul> </li> </ul> <p>【持参物品（予定）】（主に保健会館用備品を使用）</p> <p>テント・担架・ベット・バルーンライト、発電機、拡声器</p>
<p><b>② 総合防災訓練</b></p> <p>※実施理由：病院前救護所体制はR9年度からとなる。その間は現応急救護所体制であるため、現体制の訓練は必要となるため実施。</p> <p>【参加者】三師会会員、習志野市アマチュア無線非常通信連絡会会員、市職員</p> <p>【内容】上記試行訓練があるため、縮小し実施したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害医療本部と応急救護所4か所にて、設置・運営・情報伝達訓練の実施。</li> </ul>

### (3) R8年度以降の訓練について

- ・ R8年度には病院前救護所体制で訓練実施へ。
- ・ R7年度試行訓練結果や各病院・関係団体の状況を踏まえ、訓練内容・方法を検討する。

#### 【会議審議事項 4.】 令和7年度以降の訓練についての意見

・ 令和7年度試行訓練は各病院での防災訓練体制は異なるため、病院の実態に合わせて実施したい。各病院の訓練は平日が多く、三師会会員は診療があるため休日のみの訓練参加となる。令和7年度の試行訓練結果と参加団体の状況を踏まえ、令和8年度以降の訓練については検討することとなった。